

『日刊・動労千葉』第2位(優秀賞)を獲得

—第6回千葉県労連 機関紙コンクール—

1983年8月15日 千葉県労連

県労連第6回機関紙コンクール入選作品

第一種		
最優秀賞	「鉄環」	川鉄千葉労組
優秀賞	「新路」	新京成電鉄労組
佳作	「がらくた」	自治労茂原市職
	「国労ちば」	国労千葉地本
第二種		
最優秀賞	「ますこん」	国労千葉運転区分会
優秀賞	「日刊動労千葉」	国鉄千葉動力車労組
佳作	「電力ちば」	国労千葉電力区分会
	「いぶき」	自治労銚子市職
	「ふなばし」	全電通船橋分会
	「むせんだ」	全電通銚子無線分会
努力賞	「日刊やまだ」	南葛一般山田機械分会
	「旭地区労ニュース」	旭地区労働組合協議会
	「ぜんていかとり婦人部報」	全通香取支部婦人部
第三種		
最優秀賞	「壁新聞」	川鉄千葉労組製鋼第3支部
優秀賞	該当作品なし	
佳作	「壁新聞」	川鉄千葉労組管理支部
機関誌		
最優秀賞	「新路」	新京成電鉄労組
優秀賞	「組合家庭だより」	川鉄千葉労組
佳作	「波紋」	川鉄千葉労組青婦文体部

応募作品は第一種8、第二種30、第三種2、機関誌5でした。県労連第30回大会で表彰式をおこないます。



83. 8. 24

No. 1425

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六・公衆)〇四七二(22)七二〇七



県労連第六回機関紙コンクールにおいて、動労千葉の機関紙『日刊動労千葉』が堂々第二位・優秀賞を獲得しました。

『日刊動労千葉』編集委員会は、今回の受賞を機に、八〇年代を闘う動労千葉の路線を全国に拡大するための「紙の弾丸」として『日刊動労千葉』のさらなる強化・充実をちとる新たな決意を表明するものです。

多くの注目と評価を集めている動労千葉の『日刊』

八月十五日付県労連機関紙『千葉県労連』に掲載されたように、県労連第六回機関紙コンクールの「第二種機関紙部門」において『日刊動労千葉』が第二位・優秀賞を受賞しました。

とりわけ「第二種」は、県労連傘下の各労組から出展された三〇作品が審査の対象となり、この中から選出されたということは、『日刊動労千葉』が県下の労働運動内で大きく評価され注目されていることを示しています。

『日刊動労千葉』は一九七九年の一月八日発行以来、すでに一四二五号に達し、全国各地に国鉄はもとより他の多くの産別の労働者仲間の中にその読者網を拡げています。

日帝・中曽根の戦争にむけた軍事大国化・改憲の攻撃が日々激化している今日、労働運動指導部が闘う方向性と勝利の展望を示しえない状況の中で、常に労働者階級の立場と闘う方向性はこうあるべきだと正しい路線を提起してきた『日刊動労千葉』のもつ役割はますます重要となってきました。

闘いの原則と勝利の方針を与えつづける『日刊』

とりわけ国鉄労働運動においては、昨年来、反

動マスコミの「ヤミ・カラ・タルミ」キャンペーンと一体となり、臨調―緊急11項目強行実施―国鉄労働運動解体攻撃がふき荒れ、国鉄労働者の血と汗でかちとってきた多くの権利が奪われるという現実が直面しています。

それと同時に、労働運動の内部からこうした攻撃に屈服し、積極的に呼応する反動分子―動労「本部」―革マルの反労働者の本性がますます明らかになっていく中で、全国の真に闘う国鉄労働者は、政府―国鉄当局―動労「本部」―革マルのまさに三位一体化した敵との激しい闘いをくりひろげています。

敵の心臓をすろどく射ぬく 「紙の弾丸」

『日刊動労千葉』は政府・自民党、国鉄当局の侵略戦争動員体制づくりにむけた国鉄労働運動解体攻撃に対し、労働運動の原則を守り「三里塚・反合を闘う労働運動」にこそ唯一勝利の展望があること、動労「本部」―革マルを職場から追放・一掃することなしに国鉄労働運動の未来はありえないことを訴えてきました。

こうした『日刊動労千葉』は、動労千葉組合員の理論武装と団結の強化に大いに役立っていることはもとより、全国の労働者とりわけ国鉄労働者に多大な影響を与えています。国鉄の全職場に届けられている『日刊動労千葉』を読んだ国労や動労組合員が購読を希望し動労千葉を訪れてきています。

階級的立場を堅持し、敵の急所を射ぬく『日刊動労千葉』はそれゆえ政府・自民党・国鉄当局、動労「本部」―革マルなど、全反動勢力の憎しみの的であり、攻撃の的となっています。

すべての組合員のみならず、全国の読者のみなさん。たとえどのような攻撃があろうと、動労千葉の「八〇年代に通用する自前の労働運動」路線のもと、「三里塚・反合闘争を闘う労働運動」の、千葉県下はもとより、全国的拡大にむけた最大の武器として、『日刊動労千葉』の強化と充実を全組合員の力でさらにかちとっていかうではありませんか。